

11/3 飯館中学校「赤蜻祭」開催

飯館中学校文化祭「赤蜻祭」が開催されました。

今回の文化祭は、「文化祭をこれまでの中学生生活の集大成としてひときわ輝く自分に出会える場に」「新たな夢に向かい輝かしい足跡を残していけるように」との思いから「輝跡」というテーマが掲げられました。

赤蜻祭では、生徒たちの作品展示に加え、体験学習発表会や校内合唱コンクール、新



▲校内合唱コンクールの様子



▲「奏の庭」で披露されたヨサコイ

生徒たちが約8000個のペットボトルキャップを使い完成させたシンボルマーク



しくなった中学校前庭「奏の庭」でのヨサコイやはなづか太鼓など日ころの学習の成果、練習の成果を発表し来場者を楽しませました。

相馬税務署長賞、相双地区納税貯蓄組合連合会会長賞を受賞

11/18 飯館中学校生が中学生の「税についての作文」で表彰受賞

全国納税貯蓄組合連合会、国税庁が主催する中学生の「税に関する作文」で飯館中学校3年生の深見美穂さんの『「あるない世界」と今後』、高橋遥香さんの『税が教えてくれたこと』がそれぞれ相馬税務署長賞、相双地区納税貯蓄組合連合会会長賞を受賞しました。

7月に行われた授業を受けて書いた作文を送ったものです。

表彰の伝達は、18日飯館中学校で行われ、2人はそれぞれ相馬税務署長と相双地区納税貯蓄組合連合会会長から表彰状を手渡されました。



▲表彰を受けた深見美穂さん（左）と高橋遥香さん

11/20

幼稚園で はぴびょう会・おゆうぎ会

草野・飯館両幼稚園ではつぴょう会・おゆうぎ会が開かれ、両園とも保護者や園児の家族らたくさんの方々が日ころの成果を見学しました。

飯館幼稚園では、全体合奏「山の音楽家」で会が始まり、かわいらしい衣装に身を包んだ園児の劇やダンス、おゆうぎが始まるたび会場から大きな拍手が沸きおこりました。保護者たちは成長した子どもたちの姿をビデオカメラにおさめていました。



▲おゆうぎ会のようす（飯館幼稚園）

沖縄までのまじいの旅 見聞録最終回④(全4回)「誓い」

草野小 菅野 風希

私が一番沖縄について感じたことは、戦争がすごく大変なことと分かりました。戦争は十六才から行かなければならないし、行きたくないと思っても、絶対行かなければならないので、死にたくなくても、多くの人が死んでいきました。

▲平和の礎前で説明を受ける児童



戦争に行かなくても、食べ物がなかったり、アメリカ軍に殺されるならと多くの人が命を落としました。なので、もう戦争はやってほしくありません。

また、平和祈念資料館では、戦争のときのことや石碑のことを学びました。たまたみ二畳のせまきに、爆弾が何十発も飛んできたなら、よけることもできないし、生き延びることがとても大変なことが分かりました。石碑では、もつとすばらしいことに気づきました。戦争は、日本人だけが傷ついたわけじゃなくて、アメリカ人も傷ついた。だから、日本だけじゃなくてアメリカ人も亡くなっていたので、平等に石碑に名前をほっていたということなんです。

アメリカの人も、日本の人も、どちらも同じように命をおとしていったのです。そう思うと、アメリカの人もすごくかわいそうでした。

私は沖縄で命の大切さがとてもわかりました。私たちが今、

▲ふくしまの塔へ献花する児童



豊かな生活をしているのは、多くの人たちの命が犠牲になったりしていることがわかりました。

これからは、人の命を大切にしたいと思えます。

飯館小 佐野 葉月
私は、沖縄までの旅に行つて、たくさんのお話を学びました。そしていろいろな事を感じました。

私がとくに学んだ事は、命の大切さ、すばらしい自然、それを守る大切さです。

ひめゆりのとうでは、たくさんの方が亡くなり、チビチリガマでは自ら命を絶った人がたくさんいたそうです。もちろん男性もたくさん亡くなりました。

マングローブ観察では、自然の大切さ、植物を守ると言う事の大事さを学びました。そして改めて「自然は、美しい。自然を守る事は大切だな」と思いました。